収録日：2025 年 5 月 20 日

直滑降ストリーム特別企画「県議と知事の紅茶懇談」は、群馬県議会議員をお招きし、親しみやすく身近なテーマでお話をするシリーズです。

それぞれの県議の人柄や趣味の話など、幅広く話をしています。議会でのやりとりだけではなかなか見えない部分も、お伝えできると考えています。

第８回目のゲストは、自民党の矢野英司県議です。番組では、高校時代から始めたバンド活動の話や県議として取り組みたいことなどについて、お話を伺いました。矢野県議の親しみやすく魅力的なお人柄が感じられる内容となっています。



第８回 矢野 英司 県議（自由民主党）

山本一太群馬県知事（以下、知事）
群馬県知事の山本一太です。今回も直滑降ストリーム「県議と知事の紅茶懇談」のシリーズをお送りしたいと思います。

８回目のゲストとして、自民党の矢野英司県議にお越しいただきました。矢野さん、どうぞよろしくお願いいたします。

矢野英司県議（以下、県議）
よろしくお願いします。

プロフィール

知事　プロフィールからご紹介したいと思います。選挙区は富岡市、会派は自民党、当選回数２回、出身は富岡市です。趣味は野球、ゴルフ、スポーツ観戦ということですが、後でいろいろ伺いたいと思います。

生い立ち

知事　まず、どんな幼少期を過ごしたのでしょうか。

県議　小さい頃から、遊びが大好きでした。山に行ったり、川で釣りをしたり、泥だらけになって遊んでいました。小学校３年生のときに、野球に誘われて、入りました。100 人を超えるようなマンモスチームに所属していて、夢は「前橋の敷島球場で野球がしたい」、そんな思いで一生懸命やりました。

それで、小学校６年の最後の夏に、市の大会で優勝して、敷島球場で行われる県大会に出場できました。

知事　ポジションと打順は。

県議　ファーストで、打順は１番です。

知事　１番だったんですね。じゃ

あ足も速いんですね。

県議　足も速かったです。

知事　野球の魅力は何ですか。

県議　チームで試合を勝ち抜くっていうところと、個人も一生懸命やらないと勝ち抜けないっていうことがあると思っていて、やはり野球はいいスポーツだなあと思います。年齢が上がってもプレーできるし、日本の中では国技に近いスポーツだなあと思っています。

知事　国民的スポーツですもんね。同じチームで一緒にやってた仲間とは、今でも付き合いがあるんですか。

県議　今も付き合いがあります。それぞれ違う職業に就いていますが、仲間に会うと、当時の話をしながら、同じ志を持ったなーっていう話をしています。

趣味

知事　そのあと、音楽をやっておられたということですね。

県議　アマチュアなんですけれども。中学校までは野球をやって、高校に進学するときに小さなライブを見に行ったのですが、そこで出会ったのが氷室京介さんがやっていた「BOØWY」の前身のバンドで、歌声を聞いて感動したんです。

　その後、カセットテープを入手して曲を聞いて、「音楽はすごい」と思い、バンドをやってみたいなあと。

知事　それでバンド結成するわけですよね。

県議　高校に入ってすぐにバンドを結成しました。パンクバンドを選択しようということで、当時活躍していた「アナーキー」や「ザ・ルースターズ」のコピーバンドとして、地元の富岡の路上でやったり、スタジオを借りたりしてやっていました。

知事　ストリートミュージシャン的にやったんですね。楽器は何を担当したんですか。

県議　その時はベーシストでした。

知事　ベーシストだったんですか。かっこいいじゃないですか。

県議　ベースを弾きながら歌っていたんですけど、ある時ボーカルがいなくなってしまったので、じゃあ歌うよってことで。

知事　ベースを弾きながら歌うっていうのも、当時流行りましたよね。ボーカルがいなくなったので、途中からボーカルもやったと。プロでやっていきたいという思いもありましたか。

県議　そう思っていましたが、まずはコンテストで優勝してからだろうということで、群馬県の大会で、1987、88 年に２度優勝できました。

知事　群馬県のロックフェスですか。

県議　「ROCK　IN（ロックイン）」っていう大会です。そこで優勝して、東京で行われる全国大会に出ました。

知事　群馬の ROCK IN で２回優勝したんですね。すごいですね。

県議　ですが、全国大会に出たらレベルが高くてびっくりして、これはちょっと厳しいなあと思いましたが、いい思い出です。

　「BOØWY」の影響を受けて、髪の毛をスプレーで固めてやっていましたね。

知事　すごくかっこいいですね。当時は音楽やると、ものすごくモテるじゃないですか。モテたでしょ。

県議　いえいえ、そんなことは。でも、群馬で優勝したときは、みんなバスで全国大会に応援に来てくれました。

知事　ボーカルだから、ライブやるたびに、キャーキャー言われたでしょ。

県議　そういうのを夢見てましたけれども（笑）。

知事　ただ者じゃないですよ、この人（笑）。私の大事な盟友で、非常に男気があって、信頼できるんで、矢野さんのことすごく好きなんです。どこかポップな感じがしたんですけど、やっぱり音楽から来てるんですね。

　大会で優勝したときは、オリジナル曲ですか。

県議　オリジナルです。ロックなんですけど、曲調はちょっとニューミュージック系になっていました。「N（エヌ）」という曲名です。

知事　かっこいい。デモテープとか作ったんですか。

県議　デモテープも作りました。

知事　レコードデビューはしなかったんですか。

県議　しなかったんですよ。その前に BUCK-TICK がレコードデビューして、我々の出番がなくなったなあって思いました。

知事　今はもうやらないんですか。

県議　今はアコースティックギターを購入して、また少しずつ趣味にしていこうかなあと思っています。

知事　矢野県議は非常に歌がうまいという噂も聞きました。何が十八番なんですか。

県議　今はミスターチルドレンです。そういう歌謡曲が好きですね。

知事　一気に親近感が増しました。矢野さんから見て、BOØWY の何が素晴らしいと思いますか。

県議　ギタリストの布袋さんの独創性ですかね。ギターを弾きながらあそこまで踊ったりする人っていないんですが、足を上げたり、パフォーマンス力がすごく高い方ですよね。そこに氷室さんがハスキーなボイスで歌い、そのコラボがものすごくて衝撃が走ります。

知事　私も音楽好きで、アマチュアでやっていますけど、音楽って年齢や性別、国籍などを全部超えると思いませんか。

県議　そうですね。音楽で伝えていたのを、今はマイクを持ち替えて、しっかりと皆さんにお伝えできるように、また違うバトンを受け継いだような気がしています。

政治家になった経緯

知事　その後の人生も紐解いていきたいと思うんですが、政治を志したきっかけをお聞きしたいです。

県議　私が 26 歳のときに父親が他界して、それまでにもいろいろなことを経験していたんですが、もう少し世の中を知った方がいいという思いがあり、JC（青年会議所）に誘われて入会しました。

入会した当時に阪神・淡路大震災が発生し、その際に現地に出向いて、何をすべきなのかを学ばせていただいたんですよね。また、新潟の中越地震の際にも現地に行き、体育館の整理や温かい飲食品の提供などを行いました。

災害時は、体育館に物資が集められますが、山のように積んであるだけなんです。これってどうなんだろうと思ったときに、政治の力でそういったものを整理できないかという思いも出てきました。そんなことをひしひしと思うようになってから、政治というものに対して取り組んでいこうと思いました。

知事　JC 時代にすごく影響を受けた人がいると聞きました。

県議　デジタル担当大臣（撮影当時）の平将明さんです。この方にお会いしたことも、政治を志すきっかけになりました。

JC には、群馬県だけでも 800 名を超えるメンバーがいるんですが、その中で会長を務めさせていただきました。その時に、東京青年会議所にいた平さんが、関東の会長をやるということで、そこで一緒に活動しました。その姿を見て、こんな人が世の中にいるのかというくらい異端児なんですけど、改革をしなければいけない、みたいなことで、我々も感化されることがあって。

それまでは、会頭選挙って、大体事前に決められた人が就任していたんですが、平さんはそんなことじゃだめだということで、立候補して会頭を選挙しようと。そういうことを起こしたんですね。

知事　そのあと、政治への志を持って県議に立候補することになった経緯も教えてください。

県議　若い世代の意見を通していくにはどうすればいいんだろうか、という話をグループで話をしていたら、結論として誰も手を挙げなかった。そしたら、「言い出しっぺのお前が選挙に出ればいいんじゃないか」ということになり、出馬することになりました。

知事　最初は無所属で出られたんですよね。現職の自民党の県議がいて、そこに挑戦するような形で。その中で挑戦して勝ち抜いて、今自民党に合流されたということですが、難しい選挙でも出ようと、矢野さんの背中を押したものは何だったんですか。

県議　地域の方々の気持ちで背中を押していただいたと思っておりますし、あとは大切にしてきた仲間ですね。仲間が、最後まで担ぎ切ってあげると、そんな強い意志を感じましたので。

今でもそういう人たちと一緒に、地域を作っていこうと活動しています。たまたま私が代表にいるだけで、多くの仲間とともに、富岡という地域をいい地域にしていきたいと思っています。

県議としてやりたいこと

知事　県議会議員として、これだ

けはやりたいということがあれば、ぜひお聞きしたいです。

県議　群馬県の人って、東京に憧れを抱くことが多いと思いますが、自分の住んでいるところの良さや、誇りに思えることがなかなか薄くなってしまっているなと感じていました。

　でも、知事は今まさに群馬県が一番良いところだと言っていただいている。私も同じ気持ちで、群馬、そして故郷である富岡を誇りに思って、県民の皆さんが胸を張って世の中の人たちに言えるようにしていきたいなと思います。多くの方に群馬にお住まいになっていただいて、良さを感じていただき、さらにその良さを発信していけるように頑張っていきたいなと思っています。

知事　素晴らしいですね。富岡の課題や、富岡に必要なものについてはどう捉えていますか。

県議　やはり、人口減少が一番の課題です。富岡製糸場もあり、妙義山もあります。いいものはあるんですが、その良さが発揮しきれていないことが課題だと思っています。

　田舎だからこそ住みやすいとか、住んでいるからこそ、いいものがもっとわかるというところを、しっかりと PR しながら、多くの方に住んでもらえるような、そんなエリアにしていけるように力を注ぎたいなと思っています。

知事　一貫しているのは、群馬県に住んでいる人たちが誇りを持てるようにしたいと。

県議　そうですね。そこが一番だと思います。

知事　心から、群馬県はいいところだよと、みんなに言いたくなるような、わくわくさせるような地域、群馬県を作りたいということでしょうか。

県議　そのとおりです。そのために、政治的なこと、経済的なこと、仕事、企業というものを結びつけながら、議員としての力を発揮したいと思っています。

知事　県議をやっている中で、悩んでいることや、大変なことがあれば、それも聞きたいです。

県議　その地域に飛び込んだときの温度感というか、年齢によって捉え方が違うので、本当にその人の気持ちとか、要望を汲み取ることが、ストレートに難しいんだなあという気がしています。

　例えば、いろんなグループがあったり、労働組合の方もいたりする。全ての方の思いを聞き入れていけるような人間になりたいと思っているので、ちょっと政党の枠を外したり、また戻したりということをしながらやっています。

群馬県の魅力 30 秒 PR

知事　30 秒で群馬県の魅力をお話しください。

県議　群馬の魅力、それはまさに、私の地元・富岡市にある富岡製糸場と絹産業遺産群。ぜひ、群馬にお越しの際は、絹産業遺産群を含め、必ず見学していただきたいと願っております。ぜひ、よろしくお願いいたします。

知事　ありがとうございました。富岡製糸場は群馬県唯一の世界遺産なので、これは県民共通の財産です。これからも２人で連携し協力して盛り上げていきたいと思います。

県議　いろいろな形で、よろしくお願いします。

知事　これ無理かもしれませんが、「N（エヌ）」のサビだけちょっと歌ってくれないですか。矢野さんのオリジナル曲のサビのところだけ。

県議　音が高すぎて、いきなりはドーンて出ないんですけど…（笑）。

知事　雰囲気はどんな感じですか。雰囲気でいいんですよ。

県議　♪愛のない欲望だけの Make Love♪

知事　うまい！素晴らしい！

県議　ちょっと恥ずかしい。すみません（笑）。

知事　今日は自民党の矢野英司県議にご登場いただきました。ありがとうございました。盟友で仲良しなんで、いろいろ知っていると思ったけど、知らなかったことも多かったです。懇談やってみるもんですね。

県議　ありがとうございます。

知事　またいつか、一緒に歌いにいければと思うんで、よろしくお願いします。

県議　ありがとうございました。